

お茶の時間



キャップ、ワー、汚な〜い！ TVをフケたら何やら大騒ぎをしている。梅雨じきは特にカビに用心をというらしい。ハッキリ言ってカビはあって不思議でない。近頃過剰反応げきて、むしろ抵抗力を弱めてしまって、と心配になる。ほどよく付き合ひ、負けない体を作ること大事よ。それにしても お風呂の床の赤カビ なんかかならないかしら。体を洗った後、きれいに床、流し洗いするんだけれど。換気扇、回しては

振り返る月日が多くなり、あんなこと、こんなこと、とめぐりばかり。

いまのめぐりて
夢は



言葉は心



5月19日 おや、もうこんなに！



5月29日 右側は蕾か。



6月3日 今日咲かば？



6月4日 咲きました。

アマリリスが咲いた



6月9日 いっぱい咲いた



6月11日 さらに鮮やか。

ようやく芽が出た。と思ったら、葉の横から花芽が伸び出して勢がいい。仲良く並んだ左側が先に芽を出したのにのんびり右側がグングン伸びて追いついた。見事な姿で辺りに鮮やかな色も放つ。まさに真夏のようだ。「夜が終った後の、葉も楽しみですよ」と送り主の話。

和名 浜ガク水山、ヒガバケ科

歯のよもやま話 第二十二話

映画に出てきた歯医者さん

先回は歯医者さんを主人公にした映画の話でしたが、今回は映画に出てきた本物の歯医者さんの話をしましょう。

私が卒業して大学の医局に入局したばかりの頃です。毎週医局会で、それぞれが担当している専門雑誌の興味ある論文を紹介してあつていました。私の担当の中にアメリカ歯科医師会雑誌があり、純粋な学術雑誌ではありませんので、ゴッドファーザーのマーロンブランドのメロキヤップのしかただとか、くだけた記事も埋め草に載つていました。その雑誌に「世界一有名な歯科医師」といった記事があつたことを思い出し、新潟大学の附属図書館に行つて探してみました。

やつと見つけたその記事は、残念ながら「世界一有名な歯科医師」ではなくて「ジョージアの最も有名な歯科医師 ドク・ホリデイ」というものでした。



ドク・ホリデイ

ドク・ホリデイ (ホリデイ先生) ことジョン・ヘンリー・ホリデイは1851年8

月14日アメリカ合衆国南部のジョージア州アトランタ郊外のグリフィンで生まれました。父親は薬局を営んでおり後に市長を勤めた名士でした。ジョンは名門ペンシルバニア歯科大学に進学し、1872年歯学士を獲得、アトランタで開業しました。腕の良い歯科医師でしたが、開業直後に結核感染が判明します。医者の見立てでは転地療養しなければ数ヶ月の命ということでした。ダラスに移りま

すが患者治療中に発作を起こすなどますます症状が悪化しついには診療をすることができなくなりました。そこで、ギャンブルにのめり込みます。当時の西部のギャンブラーはピストルやナイフで身を守ります。どうせ結核でじきに死ぬのだからと殺し合ひは怖くありませんでした。いろいろな修羅場をくぐるうちお尋ね者になっていきました。そんな中でワイアット・アープと出会う友人となり、命を助けます。その後追われてアープをたよってアリゾナのトムストーンに行きます。そこでクラントン一家との間で「OK牧場の決闘」がありました。

この話は多くの映画になっていきます。中でもジョン・フォード監督による「荒野の決闘」(1956年製作)が有名です。アープをヘンリー・フォンダ、ドクをヴィクター・マチュアが演じ、ドクを東部からクレメンタインが追いかけて来ます。主題歌は「いとしのクレメンタイン」で曲は「雪山讃歌」として日本でも広く歌われています。オーマイダーリン・オーマイダーリン・オーマイダーリンクレメンタイン… 懐かしいな。また、アープをバート・ランカスター、ドクをカーク・ダグラスが演じた「OK牧場の決闘」(1957年製作)も有名です。

アープは「彼は私が出会った六連発銃を持った最も卓越したギャンブラーで最も速くて危険な男だ」といつています。ホリデイは自分は簡単にどこかで殺されて一瞬のうちに命を失うだろうと考えていましたが、コロラドのグリーンウッドスプリングスの療養所で5日間ベットに横たわった後1881年11月8日安らかに息を引き取りました。墓はグリーンウッド墓地にあるそうです。

子田晃一

スゴ~イ!
ペしゃんこ信号機



LED(light emitting diode 発光ダイオード)が着目の中にまたたく間に普及した。
5月、新潟伊勢丹と立体駐車場をつなぐ歩道橋を歩いていた。薄ぺらの信号機が目にとまった。あの辺り(万代シティ)の敷の所にこんなものがある。スッキリして、往時の雰囲気似合っている。
先ず、薄さに驚いた。高輝度LEDを使ったフラット型信号機で厚さ6cm。消費電力も1/10。電球は、1年に1回交換が必要だが、LEDなら7年に1回で済み、価格も大差ないようだ。

新潟のような雪国では、雪の付着を最小限に抑えるために、信号機がタテに設置されている。
フラット型は、レンズに微細なデコボコがあり、前傾して設置され、雪が付着しにくく、風の影響も受けにくいという。
信号機は、視認性の高さは重要で、運転中、信号機に西日が当たってわかりにくく対向車の動きで判断、かたごおりあります。

球面の信号機は、陽の光などと映れすぎてぼうで見えにくくなるのだが、フラット型は平面と前傾設置がより視認性も高めているようだ。
後日、改めて取り付けられた周辺を走行してみたがとも見やすかった。

交通信号機は、20年前頃までは一枚の鉄板にプレスした、メーカー共通デザインの金属製灯器だったものが、平成6年には製造過程がプレスから溶かしたアルミ型に流し込んだものになり、メーカー独自のデザインが登場するようになった。
さらに今から10年前、LED素子式の薄型灯器が製造され、現在に至っているという。

赤信号で停止中、信号機そのもの眺めみると、ズンツン型は少なく、ひさしつきの薄型がふえた。
灯の面と埋める光の点も大きくなり、ハッキリ目に入る。

考行信号機もスマートだ。LEDのお陰で、デザインの自由度も広がり、目に楽しい感じだ。

スッキリしたフラット型信号機は、各地に取り入れられることだろう。

現在、小糸工業、京三製作所、日本信号、信電材、星和電機、三協高分子、の6社が信号灯器を製造しているそうだ。

フラット型、みなさんの所にもありますか？



色も、鉄道に合わせて、プレー、複層立体駐車場、渡りどき、ちのちのていひてい。



信濃川やぶらぎ塚への階段手前に設置された、ひさしつきの信号機と歩行者用は。



フラット型信号機。歩行者用には小さく、ひさしがついていた。

好きな色 似あう色

好きな色、といえば春の空の色。似合うと感じるのは、明かろいグレーか淡い黄色かなあ。
年齢と共に似合う色も変わった。若い時は何色でも平気で着こなしたが、今は柔らかな色と自然に選んでいる。気が落ち着く。

好きな色を調査すると大概、青が1位になるようだ。続いて、緑、水色、紺、グレー、と上位は寒色系からとれる。青って冷静沉着なイメージ？
ついには開幕のサッカーワールドカップ。日本選手たちはサムライブルーで挑む。
青に似合い上位を目指せ。

月刊たぐさのふしぎ(第352号)
7 一本の木に葉っぱは何枚？
表紙が涼やかだ。一本のミズキ(別名、クワマズキ)が空に向かって伸びるという。
夏休み、子どもたちと、「この木に葉っぱの数を数えてみることにした。足場を組んで、準備完了。
葉っぱ全部何枚？ だんだん、おもしろいと思うよなあ。大きな木です。
ミズキの、春のうきまの姿もいい。
子どもたちの様子も楽しい。よく観察したね、と感心した。自然教室を開いている。好奇心がなくて出来なないね。」

いいなこの本



文・神崎工一
写真・神崎一馬
発行 福音館書店
定価 667円+税

月のつよやき



診療所の小山に山法師(ミズキ科の落葉高木)の木がある。白い花が咲いたように見えるが、4枚の苞。その中心に黄緑色の小さな花が20~30個密集してつく。赤は赤い突に。甘く食べられる。

白に緑の対比がまぶしく映える。山法師と好む人は、それか良いと言う。
先日、治療を終えた90歳の方が、ゆっくり眺めてから帰られた。山法師と気が付き、喜んで下さる方も。
季節の移ろいと共に、幸い気分も浸っていただけで、樹木も、花もそして私。日々嬉しい。



毎年、枝豆が届くと丁寧にかまきから出して薄皮も取り除き、恩師は枝豆饅頭を作る。(写真も選り取られた)

新潟市内は、県内有数の枝豆生産地。早い時期から枝豆が店頭並びに、10月頃まで続く。生産地だからか、おいしく、単独には好物からか、どろんと大鉢に盛って食べる。それが出たのは毎日のこと。少しもあきらまない。
枝豆の、一番おいしく食べるのは、畑で収穫したて、すぐその場で茹でていただく。最高高に美味。
名の知れた、里産枝豆でなくとも、新潟市内、至る所において、生産地がある。好みに選んで味わう。
自慢の食材、新潟には数々ある。夏のお中元は、枝豆。と決めてみる。
枝豆好きの人をさばる茹でかたにもうまい。沸湯にしたぶりの湯の中に、塩と枝豆を入れ5分間。この茹で時間、用心深い。
茹でる前に塩もみする人や、茹でかたあと、塩とぶりの汁を献目、と言う人もいたり、いや、塩の味が良いんだ、と言う人もいたり、そのこだわりを聞くのも愉快だ。
本番季節まであと少し。

だ〜い好き 枝豆

